

南会津「自立と共生」推進プラン2024

「学校の在り方変革」による教員・学校の力の最大化

新任教務主任研修会では、教務主任としての資質向上と校務運営の適正化を図るため、教育計画や学校運営等についての研修を行いました。



常勤講師研修会では、経験2年未満の常勤講師を対象に、「学びの変革」に対応できるよう、実際に学習指導案の作成を行うなど、授業づくりの研修を行いました。



今後も、個々の教員がそれぞれにもつ力を伸ばし、自己の課題に向き合うことのできるような研修を行うことで、各校の学校マネジメントの強化につなげていきます。

また、要請訪問Ⅲにおいて、授業づくりや学級経営はもちろん、生活指導や部活動経営など様々な相談に応じていきます。先生方のよき伴走者として、共に歩んでまいります。ぜひ、ご活用ください。

学びのセーフティーネットと個性を伸ばす教育による多様性を力に変える土壌の確立

子供たちが自己選択・自己決定できる力を身に付けることで、卒業後の生活がより自分らしく充実したものになると考えられます。

自立活動の指導は、自己選択・自己決定の土台となる自己理解を深めるための貴重な時間となります。その時間をより充実したものにするためには、教師側が一人一人の※教育的ニーズを把握した上で指導にあたるのが大切です。

※教育的ニーズの3つの観点

- ① 障がいの状態等
- ② 特別な指導内容
- ③ 教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容



6月の南会津郡特別支援教育研究会では、学習指導要領解説(自立活動編)を基に、自立活動の捉え方や個別の指導計画の作成方法について、各学校の特別支援に関わる先生方と共有を図りました。

「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」はこちらから ⇒



「学びの変革」による資質・能力の確実な育成

6月25日(火)に開催した域内学力向上担当者等研修会では、南会津町立田島第二小学校の齋藤里帆先生と、檜枝岐村立檜枝岐中学校の滝田千鶴子先生から、自校の授業づくりについて紹介していただきました。この2校は、昨年度のふくしま学力調査で学力を伸ばした児童生徒の割合が高い学校です。



両校の実践の共通点として、「相談し合いながら授業づくりを行っている」ことが挙げられます。「通りすがりに授業を見合う」「悩んだり困ったりしたらとにかく誰かに話してみる」など、職員間での日々の小さな関わり合いが、授業づくりや学習指導の組織的な取組となり、学力向上＝資質・能力の育成につながっていくものと捉えています。



南会津が目指す教育の基本理念

自立と共生

～『南会津』がつむぐ南会津ならではの教育～



第7次福島県総合教育計画(学びの変革推進プラン)の6つの施策に基づき、南会津が目指す教育の基本理念や、域内の強み・課題を踏まえ、事業を実施していきます。

福島で学び、福島に誇りを持つ「福島を生きる」教育の推進

<学校・家庭・地域が一体となった道徳教育の充実>

11月25日(月)、榎原小学校において、道徳教育地区別推進協議会の公開授業を行います。榎原小学校では、自己を見つめ直し、よりよく生きていこうとする児童の育成を目指し、様々な問題を自分事として捉えることができるよう、道徳科授業の充実に向け、学校全体で取り組んでいます。

道徳科の授業では、「教材を自分事とし、自己を見つめていく道徳」への転換について悩んでいる先生が多いのではないのでしょうか。榎原小学校での実践を始め、子供たちの道徳性を養う道徳教育の充実に向けて取り組んでいきます。

<地域とともにある学校づくり・学校を核とした地域づくり>

館岩地区で長年受け継がれてきた館岩音頭は、盆踊りが行われなくなり日の目を見る機会が失われていました。館岩小学校では、何とか地域の伝統を受け継ごうと、地域の方々に講師にお迎えし、総合的な学習の時間に学習を続けてきました。

今年の運動会では、練習の成果を生き生きと発揮する児童や笑顔で親しむ地域の方々の姿が見られました。

今後も地域と連携した学校の取組を発信していきます。



「南会津教育事務所 事業推進の重点」はこちらから ⇒



「広報 南会」のバックナンバーはこちらから ⇒



安心して学べる環境整備

新しい生徒指導提要には、生徒指導の実践上の視点が示され、これらの視点に根差した授業づくりが、児童生徒の発達や自己実現の支援につながるということが説かれています。



- ① 自己存在感の感受
- ② 共感的な人間関係の育成
- ③ 自己決定の場の提供
- ④ 安全・安心な風土の醸成

6月19日(水)に開催した公立学校長研修会地区別研修会では、この4つの視点を取り入れた授業場面を具体的に考えたり、これらの視点を意識した授業づくりを推進するためにはどうすればよいかを話し合ったりしました。

子供たちの学校生活の大半は授業の時間です。4つの視点を取り入れた授業づくりによって※「発達支持的生徒指導」の機会をより充実させ、これからも子供たちが安心して通える学校づくり・学級づくりの一層の推進をお願いします。



※発達支持的生徒指導：挨拶、声かけ、励まし、称賛、対話など、①特定の課題を意識せず②全ての児童生徒を対象に③全ての教育活動において、児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことを支える視点に立つて行われる生徒指導のこと

人生100年時代を見通した多様な学びの場の確立

「新しい本との出会いの心躍る感覚を思う存分楽しめました。聞いているだけでもワクワクが止まらない、一夏のよき思い出となりました。」

昨年度のビブリオバトル参加者の感想です。昨年度は、域内の生徒が紹介した本が福島県チャンプ本となり、全国大会でも第4位相当の成績を収めました、域内の子供たちの読書に対する意識の高さがうかがえます。

今年も本を介した熱いバトルが、9月28日(土)、御蔵入交流館で繰り広げられます。チャンプ本を決める観戦者もまだまだ募集中です。

読書活動支援者育成研修会の開催、読書活動推進NEWSの発行など、生涯を通した学びにつながる読書活動の推進を進めていきます。



読書活動推進に関する情報ははこちらから ⇒

